



創立153年

わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和8年 7月号

児童数350名 文責 澤村幸夫



今年もまた、学校の非常階段の裏側に「つばめの巣」がありました。右の写真のように、親鳥がヒナにせっせとエサを与えています。つばめが民家の軒先に巣を作る姿は、日本の春から初夏にかけての風物詩です。古くから「つばめが巣を作る家は繁盛する」などと言われ、縁起の良い鳥として人々に愛されてきました。(和邇小は繁盛する?)

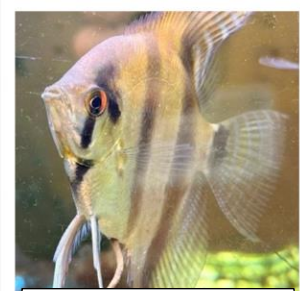
つばめの巣作りの目的は、言うまでもなく「子育て」です。自然界において、小さなつばめの卵やヒナは、カラスやヘビ、

イタチといった天敵にとって絶好の標的になります。そこで目をつけたのが「人間」でした。カラスやヘビは人間を警戒して近寄ろうとはしません。人間をボディガードとして利用する道を選んだのです。玄関先や商店街のアーケード、学校の軒下など、人の出入りが激しい場所ほど好んで巣を作るのは、人通りが多いほど天敵が寄ってこないことを親鳥が知っているからです。

そこで、毎年、同じ場所に巣を作るのはどうしてだろう、という疑問が湧いてきました。このつばめたちは昨年と同じつばめ? どこから来るのだろうか? そして親鳥や巣立ったつばめはどこへ行くのだろうか?と。今流行りのAIで調べてみることにしました。複数のAIに共通する回答は以下のとおりです。

日本で見かけるつばめは、主に東南アジア(フィリピン、マレーシア、インドネシア、ベトナムなど)から渡ってくるそうです。多くの渡り鳥は天敵を避けるために夜間に移動しますが、つばめは昼間に飛びながら空

気中の小さな虫を捕まえて食べながら移動します。なぜ迷わずに目的地に行けるのかというと、太陽や星の位置、地球の磁気、過去に飛んだルートの地形を覚えておき目印にしていると言われています。生まれたばかりの若い鳥でも、迷わずに南の国に行き、次の春にまた同じ巣に戻ってくることができるのは、私たちには想像を絶する優秀なナビゲーションシステムが備わっているからだと言われています。ちなみに、同じ巣に同じ親鳥が戻ってくるのは15~20%ぐらいだそうです。巣立った若鳥が同じ巣に戻ってくるのは1~2%ぐらいだそうです。



学校のエンゼルフィッシュ

あの小さくて可愛いつばめたちは、実は超高性能なナビを搭載した、トップクラスのアスリートなのですね。毎年、南の国から私たち和邇小学校の非常階段の裏側に戻ってくるとしたら、ちょっと奇跡のように思えてきます。

私たち人間界でも、子どもたちは「無限の可能性」を持って生まれてきます。親が手間ひまをかけて幼少期や青年期にどんな経験をさせ、どんな学びを促していくかが大事だと思います。つばめの親鳥は、1日に300回から500回ピストン輸送をして、休むことなくヒナにエサを運び続けます。巣立ち前には、飛び方やエサの捕り方を若鳥に教えます。愛情たっぷりに育てられた若鳥たちは、9~10月ごろに、南国へと飛び立ちます。子育ては、「自立への愛の道のり」です。



学校のニシキアナゴ

1,2年和邇公園

1,2年生は、新緑の和邇公園へ校外学習に出かけました。2年生が1年生をリードして、春探しをしたり、学校



にはない遊具で遊んだりしました。良い天気
で、1,2年縦割りのグループで楽しいひとときを
過ごしました。

5年生ソーイング はじめての一步

5年生の家庭科では、手縫いの練習をしました。並縫い、半返し縫い、本返し縫い、かがり縫い、ボタン付けな



どを行いました。名前や
模様を一生懸命縫い付
け、各自がオリジナル作
品を作りました。

6年奈良校外学習

6年生は、奈良へ校外学習に出かけました。平城宮跡
や東大寺の見学を行い、実物を見る中で社会科の学び
を深めました。当日の様子をダイジェスト版にまとめまし
たので、ぜひご覧ください。



6年奈良校外学習

紙面配布のみ表示



期間限定 7/1~8/31

4年 校外学習

4年生は、湖西浄化センターと北部クリーンセンター
に校外学習に出かけました。湖西浄化センターでは、下



水道を通して
集まってきた汚
水を、いくつも
の段階の処理
を経て、きれい
な水にする方
法について実
物を見ながら

学びました。午後からは、北部クリーンセンターでゴミ処
理について学びました。各家庭から出るゴミは、パッカ
ー車によってクリ
ーンセンターに運
ばれ、種類ごと
に処理されます。
ゴミを正しく分別
して出すことがい
かに大事であるか
を学びました。ペット



3年 里山の学習

3年生では、「和邇のステキを見つけよう」という学習
の一環として、栗原在住のゲストティーチャーに来校い
ただき、里山の生活について、興味深い話を聞くことが
できました。今、日本各地で「里山」が失われつつあり



ますが、山を守
ることは自然
環境保護の観
点から、とても
重要であるこ
とを教えていた
できました。

4年 校外学習

紙面配布のみ表示



期間限定 7/1~8/31

ボトルについては、手作業で分
別されている場面を見せてい
ただきました。リサイクルするに
は、ペットボトルの中に別の物
(ゴミなど)を入れてはいない
ことを学びました。

新シリーズ 最新！

子どもの たからもの



第4弾「5・6年生の心の世界」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ最新の情報を掲載したいと考えています。

子育ては思うようにはいきませんし、子育てに悩みはつきものです。そこで、40年間の教師人生で、私自身が子どもや保護者から学んできたことをお知らせし、“少しでも参考にさせていただければ”という思いで掲載します。

第4弾は、前回・前々回に引き続き、5・6年生（高学年）の心の世界について考えていきたいと思います。

小学校5・6年生の時期は、「プレ思春期」といわれて、少しずつ子どもが精神的に自立に向かい、反抗的になってきます。個人差がありますが、どちらかというと、女の子のほうがませた様子が見られる一方で、男の子はまだ子どもらしい、という場合が多いように思います。

また、高学年になると、抽象的思考ができるようになります。算数でいうと、実際長さを測ってみることから、〇〇cmとする、という仮定が理解できるようになります。生活面では、「夢」や「将来」、あるいは「自分」について考えだし、大人からすると、考えていることが分かりにくくなります。第二次性徴が始まり、性を少しずつ意識するようになります。

5年生は、それでもまだ、弟妹分という感じですが、6年生になると、小学校の中でさまざまな役割（委員会やクラブ活動、登校班や全校集会・運動会などの役員）を担い、忙しくなってきます。友だち関係では、周囲からどう見られているか（客観的認知）が重要となり、対人関係で悩むことも多くなります。

そこで、この時期に、親として大切にしたい心がけを3つ述べたいと思います。

1つ目は、子どもを一人の人間として認めるということです。もちろん、この時期以前でも、子どもは尊重されなければいけませんが、特にこの時期になると、子どもの側にもその意識が強まってきます。親のほうは、なかなか気持ちが切り替えられず、「子どもだから」と精神的自立を認めることができません。干渉しすぎたり、親の望むとおりの子どもを動かそうとしたりしてしまいます。しかし、高学年になると特に親の干渉を嫌います。それはそれだけ精神的に成長したという証です。一人の人間として、親とは異なる意見や考えを持っていいのだ、むしろ子どもにも意見を求める、というスタンスでいくと、うまく関わっていけると思います。

2つ目に「秘密」を持つことに、エールを送ろうということです。小学校低学年までは、自分の日記帳などを親に見られても文句を言わないかもしれませんが、高学年になると、急に嫌がるようになります。とくに親に見られて都合の悪い事はないのですが、自分のプライバシーに立ち入られることを子どもは嫌うのです。秘密を持つようになったということは、言い換えれば、親から精神的に自立し始めたということです。幼児は秘密を持つことはできません。逆に言うと、子どもに自立を促すということは、子どもが秘密を持つことを支援する、ということです。秘密は秘密として尊重したうえで、本当に心配なことは、とことん話し合える、または気づくことができる親子関係を築いていきたいものです。

3つ目は、親子であっても異性の礼儀をわきまえるということです。高学年になり、第二次性徴が始まると、子どもは性を自覚し、異性を意識するようになります。それは親子であっても例外ではありません。一人の男性、一人の女性として尊重することが必要になってきます。「親子だから恥ずかしいから」で父親が娘に、母親が息子に立ち入ることは避けなければいけません。子どもの成長は大人が思っているよりもずっと早いものです。大人の側に頭の切り替えが必要とされるのだと思います。精神的自立に向かう子どもたちを応援していきたいものです。



学校のアロワナ
本文との関連はありません。